

平成30年度第2回白井市立図書館協議会（概要）

- 1 開催日時 平成30年11月29日（木）16:00～17:50
- 2 開催場所 白井市立図書館2階 研修室2
- 3 出席者 委員 尾形会長、柏木副会長、大石委員、野坂委員、中野委員、北原委員
事務局 川上文化センター長、鎌田館長、内山副主幹、藤田主査
- 4 傍聴者 2名
- 5 会長あいさつ
- 6 報告事項
（1）図書館の開館時間、貸出数及び貸出期間の試行について
- 7 協議事項
（1）図書館のあり方の検討について
「資料費について（案）」
「職員配置について（案）」
「資金調達について（案）」
- 8 その他
- 9 配布資料
（1）会議次第
（2）会議資料
（3）図書館カレンダー
（4）利用案内（2018.12.4版）
（5）文化センターだより9・10・11・12月号
- 10 議 事 以下のとおり

事務局	報告事項（1）図書館の開館時間、貸出数及び貸出期間の試行について ・試行中に行うアンケート（案）について
会長	報告事項の説明について、確認事項等ご意見はあるか。 ないようなので、アンケート（案）についてご意見をお願いしたい。
委員	図書館に来館していない人に対するアンケートには「本日はご来館いただき～」の文言はなくして、「問」については番号を振った方がよいと思う。
委員	A市立図書館も利用するが、視聴覚資料は延長できない。サービスを内容で比較すると、白井では視聴覚資料の貸出延長ができるのでとても親切である。貸出点数が5点だと貸出期間が2週間あるとよいと思うが、返却を待っている人もいるので、希望のある資料のみ延長できればよいと思う。延長についても明記してあるか。

事務局	予約の入っていない資料のみ図書・視聴覚資料ともに延長できる旨、利用案内に明記してある。今回はこの点についての変更はない。
委員	満足度調査について、「満足・やや満足・普通・やや不満・不満足」という聞き方は、「やや満足、やや不満」に○をつける人が多いと思うのでよくない。今回の夜間開館のアンケート（案）には入っていなかったのによいと思う。
会長	アンケートの主たる目的が試行についてということがあり、アンケートをいつやるかという問題もある。アンケートの目的を明記した上で、試行期間についてきちんと説明する。項目を「今回の試行について」「一般的なもの」に分けるとわかりやすい。また、「夜間開館の回数は」の設問に対しては、具体的な回数を記入してもらうようにして、「利用しやすい曜日」「いつでもよい」などを選べるような裁量権があると本音を聞きだしやすいと思う。周知期間が短いという意見があったようだが、アンケートが1年後では遅いのではないか。アンケートの実施時期について、季節によって変わるかもしれないが、間延びしないようにしていただきたい。
委員	アンケートをする必要があるのか。アンケートの意見が、「週3回以上」夜間開館であったら、試行後にそれができるのか。アンケートを1年以上先にして、それを既成事実にするのがよいのではないか。もしくは3カ月以内に実施するとアンケートとしてはいいのかもしれない。「以前は」という設問だと、前の方がよかったという意見が出てしまうのではないか。今はどうなのかと聞いた方がよい。できることを聞くのはよいが、できないことについてアンケートをする意味はないと思う。
会長	財政的な背景と労働時間の問題もあって今回の試行となったが、開館時間が短縮され、利用する市民にご不便をおかけするので、その代わりに貸出冊数を増やすということになっている。それを前面に出したアンケートでよいと思う。
委員	アンケートの聞き方についても、図書館が聞く耳を持って、意見を蓄積していき、その都度考えることが必要だと思う。アンケート開始時期は、冬と夏とでは意見が異なると思うので、ご意見箱を置いておくとよいかもしれない。週3回と書けば可能なのか、可能でないならば、聞くだけ聞いて、やらないのは問題ではないか。
館長	試行チラシ配布時にカウンターで、利用される方からいただいたご意

	見も汲み上げるように職員間で共有している。
委員	図書館が意見を聞いて、より良いものになればいいと思う。
会長	先ほどの意見のように、汲み上げられる案はないか、全体的に質問項目の中の見直しが必要だ。アンケート項目の中に、図書館サービス（案）について、「『利用者がこう考える』という意見を聞きたい」とすると、利用者の声を吸い上げたことになる。
館長	素案ができあがりましたら、また委員の皆様に見ていただく。
会長	子どもも自分の資料は、自分の利用券で借りるようになればよい。
館長	赤ちゃんから利用券の登録を積極的にお願ひしているが、強制はしていない。家族間で使われている方もいる。
委員	幼稚園や学校で図書館の利用券を作ることはできないのか。
事務局	年度当初に学校図書館との担当者会議で、図書館から利用券登録についてお願ひしている。登録はセンター図書室でもできることを伝えている。図書館に歩いて来館できる学校（南山小と第一小）は、図書館ガイダンスの時に必要になるため、ほぼ全校生徒が利用券を持っている。
委員	子ども時代からの読書は非常に重要だと考えている。将来的にもいつでも作ることができるとよいと考えている。
事務局	補足になるが、図書館協議会委員の構成要件に学校関係者を含むことになっている。校長先生に参加いただいているので、図書館ガイダンスを授業で活用いただくようお奨めしている。
委員	アンケート項目について、「夜間開館の回数は適当ですか？」という設問なのだから、「適当か」「適当でないか」だけを問う形にして、次に自由回答で希望回数等を記入できるようにすれば、回答項目にあったのに意見を吸い上げてくれないという不満は残らないのではないか。

館長	<p>7 協議事項</p> <p>(1) 図書館のあり方の検討について 「資料費について(案)」</p>
会長	この資料はという方がご覧になるのか。
館長	行政職員を対象にしている。まとめた後は、市民や図書館を利用する人に公開する。
委員	資料の作り方で、初めに結論を書いた方が良いと思う。比較、統計「以上のことから、図書館はこう考え、これぐらい予算が必要である」と最後に結論をもう一度書く。日経ウーマンの『わかりやすいプレゼン資料』が大変参考になる。
委員	たくさんの予約が入る資料がある一方で、1回も貸出されない資料があると思うが、図書館としてはどのように購入しているのか。要望の多い資料は何冊購入するのか。
館長	予約数が多い資料は、複本を5冊まで購入している。館内利用のみの参考図書は、貸出処理をしないため、利用件数はわからない。購入後、すぐに利用が無くても将来的に利用の見込まれる図書もある。一度も貸出されない資料でも、図書館でそろえなければならない基本資料などもあると考える。
委員	平成31年度にアンケートをするのであれば、「どのような資料があると魅力的な図書館になるのか」という項目を入れて、魅力ある図書館にするため、アンケートで回答のあった資料を購入したいので、資料費が欲しいという説得材料にしてはどうか。平成33年度の予算に間に合うのではないか。
会長	プレゼン資料の中で教育費に占める図書館費の割合などがあるとよい。
委員	比較対象がA市だけでは少ないのではないか。
事務局	各市の図書館が統計を公表する年報の発行時期がまちまちで、今回はA市のみとの比較となった。
会長	行政側に説明する時に、A市と比較することに市役所内でのコンセンサスは得られているのか。
館長	A市は比較対象になるが、人口は10万人を超えと大きくなってしまったので、総務省の類似団体との比較も必要になってくる。

委員	平成8年から出版物が6%も減っている。電車に乗っていてもスマホを使用して本を読んでいる人が多い。紙媒体の資料だけの資料費の検討でよいのだろうか。印刷物から電子媒体も含めた予算がこれからはよいのではないか。
館長	何年か前の委員さんからも電子媒体についての質問があり、当時はコンテンツ数が少なく、契約も複雑であった。電子媒体は電算機器に依存することが多い。機器の入替は平成32年の5月を予定している。白井市の財政状況が好転していれば、新しい電子媒体の導入を検討できるが、電子媒体のコンテンツ数、契約形態、貸出しするための機器を用意するなど、超えなければならない課題が多い。
会長	ビデオの資料を見ている方も多いようだ。メディアの移行も予算の中に入れてとよいと思う。
館長	7 協議事項 (1) 図書館のあり方の検討について 「職員配置について(案)」説明
委員	職員については、委託のような商業的な人が入るのではなくて、きちんとした職員の配置をお願いしたい。職員数が充実すると図書館運営がよくなると思う。それが伝わるような資料の作成をお願いしたい。
委員	資料作成の際に結論を明確にしたほうがよい。職員があと何人必要か、理由として例えば、「安全面」と「冊数増加による人員確保の必要性」の2つ。その論拠として、この結論に書いてあるようなこと「面積が大きいことなどから」と書き、次に対策も別項目として必要で、「マネジメント部分は委託でもよい」などとする。どうして必要なかを明確に数字で示し、対策と現状(面積・購入図書)の素納品についてなどはこうであると付け加える。強気に取りにいく姿勢も必要である。
会長	基本は文章になるので、どのような人が聞くのか考慮し、1ページにまとめる。視覚で訴えて、キーワードの入った資料を作成し、補足事項は裏面にして、後で読んでもらえばよい。思いも早く伝わる。
館長	7 協議事項 (1) 図書館のあり方の検討について 「資金調達について(案)」説明 「図書館の無料の原則」以外の部分で、継続的に入る仕組みをつくりたい。現在は、利用券の再発行を利用者負担として50円で行っている。こちらは雑入なので、図書館運営費にはならない。市の収入となる。

会長	資金調達部分を全予算の何%ぐらいか明記するとわかりやすいのではないか。資金調達の目的がぼやけている。
課長	資金調達の例を先ほど館長が説明した。わかりやすい例として30周年などにクラウドファンディングをやるのはどうか、という提案である。皆さんの意見をお願いしたい。
会長	何のために資金調達しなくてはならないか。それは目的の中に書き入れて欲しい。聞く人にわかりやすく、伝わりやすくして欲しい。
委員	図書館は「無料の原則」があるはずだが、資金調達を要請した人はどういう考えなのだろうか。主旨がわからない。
館長	毎年の予算要求の時に、「図書館も予算を使うばかりではなくて、増やす手立ては考えられないか」と財政担当から言われている。今回「図書館のあり方」を考えた中で、歳入（自主財源確保）についても考えるように言われている。
会長	30周年には5年ぐらいの期間がある。数字も目的も今後の話し合いでステップアップできるのではないか。
委員	友の会は市民からの自発的な会なのか。
館長	図書館建設時のサービス計画に携わった市民が、図書館開館後「友の会」を結成する、地域の文庫活動からや、リサイクルフェアなどの行事で集まった有志が結成するなど、成立過程は様々である。白井で「友の会」が結成されるようなら、図書館も活動拠点の提供など、積極的に応援して行きたいと考えている。
事務局	<p>その他事項</p> <p>千葉県博図公連携事業『写真でつづる千葉県と鉄道』の結果報告</p> <p>長時間にわたりありがとうございました。</p>